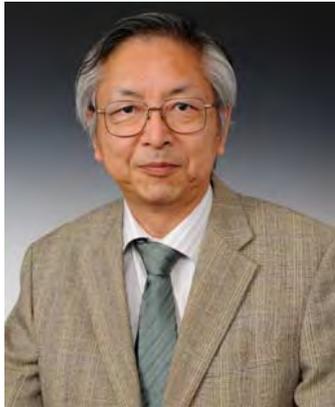




Jichi 地域連携ニュース

- ・副病院長就任のご挨拶
- ・教授就任のご挨拶
- ・診療科からのメッセージ
- ・専門看護師の活動状況
- ・NST研修会のご案内

副病院長就任のご挨拶



脳神経外科教授 渡辺英寿

2014年1月より副病院長に就任しました脳神経外科の渡辺英寿です。私は2004年に自治医科大学に赴任してまいりました。私は脳神経外科の臨床の傍ら、コンピュータ支援外科やてんかん外科などを研究し、術中ナビゲーションシステムの開発や、光トポグラフィーの開発などに携わってきました。いずれも製品化し、徐々に応用範囲が広がっています。本学に赴任後も教室の仲間とともにこれらを更に機能向上したり、新しい使用法を開発するなど脳外科のもっぱら脳外科という狭い領域で活動してまいりました。今回副病院長を拝命するに際し、今後は病院全体というものを見つめてゆかなければならないと、志を新たにしております。

私の前任地は東京の東京警察病院です。当時千代田区は飯田橋という都心にあった関係で、周囲に大学病院を始め多くの大規模病院があり、いかに手術件数を増加させるかということが至上命題であり、このことに心を砕く毎日でした。ところが当地に赴任してからは一転して手術数の多さに驚き、長年の課題が解消した気持ちになりました。ところが次第に、これこそがこの地域における大きな問題であることを自覚するようになりました。最近では本学病院の手術室のキャパシティをはるかに超える外科治療を行わなければならない状況となり、地域の中核病院との連携の重要性を感じる毎日です。このような中で、いかに地域の医療ニーズに対応し、患者さんの期待にこたえ、かつ最新の医療技術を教育・伝授してゆくという、時には相反する要求を満たさなければならないことも多く、病院経営は多くの問題を抱えていると言わざるを得ません。

もとより非力な私ですが、ご指名を受けましたので、健全な経営の一助になればと意欲を新たにしております。皆様のご協力ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶



小児耳鼻咽喉科教授 伊藤真人

この度、2013年12月1日付けにて自治医科大学 とちぎ子ども医療センター 小児耳鼻咽喉科の教授として着任いたしました。ご存知のように本センターは、大学病院併設型の小児病院であり、併設型である利点を生かして大学病院本院との密接な連携のもと、高度な小児医療を実践しています。欧米では耳鼻咽喉科の中の1つの専門分野として広く認知されている小児耳鼻咽喉科ですが、我が国ではまだその認知度は十分ではありません。このたび小児耳鼻咽喉科を担当することとなり、大学病院耳鼻咽喉科学教室のスタッフの皆さんと協力して、日々研鑽に努めていく所存ですので宜しくお願い申し上げます。

私はこれまで、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般の研修・診療を行った後に、耳科学分野（鼓室形成術などの中耳手術や側頭骨・外側頭蓋底外科）をサブスペシャリティとしてきました。耳科学や耳鼻咽喉科感染症の臨床・研究を継続するうちに、小児の難聴や中耳炎の診療・手術など、徐々に“子ども”との接点が増え、小児耳鼻咽喉科への関心が高まって来ておりました。これからは従来専門としてきた耳科学・側頭骨外科学とともに小児耳鼻咽喉科を車の両輪（ダブル・スペシャリティ）として、取り組んでいく所存です。

また前任地では、行政（石川県）と連携して小児難聴を取りまく診療基盤づくりなどの取り組みも行って参りました。栃木県におきましても県下の小児難聴に関わる専門家の皆さまのお力添えのもと、難聴児の早期発見と療育支援、さらに人工内耳とハビリテーションまでを総合的にケアするシステム作りを、単に自治医科大学だけではなく地域全体で進めていきたいと考えております。幸い栃木県には小児難聴に造詣の深い専門家の先生方やリハビリテーションを含めた小児人工内耳医療に大変熱心に取り組まれている先生がおられますので、大変力強く感じております。

微力ではありますが、新たな決意をもって栃木の小児耳鼻咽喉科学、そして耳科学の発展のため、人材育成、診療、研究に誠心誠意努力する所存でございます。地域の先生方には、今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

診療科からのメッセージ

婦人科 病棟医長(講師) 町田 静生



自治医科大学産婦人科は、産科、婦人科、不妊・内分泌の3分野のいずれにも専門家を配置し、産婦人科領域全分野に対して診療を行っています。

婦人科では、卵巣癌、子宮癌をはじめとする悪性腫瘍の集学的治療を得意としています。婦人科悪性腫瘍数は全国大学病院の上位に数えられ、とくに難治性の卵巣癌の紹介が多く、北関東の中核として活躍しています。婦人科腫瘍認定医3名、細胞診指導医3名、癌治療5名を擁しております。

積極的に他施設共同の臨床試験に参加し、将来の患者様に

優れた治療法を提供できるよう努力しています。また子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫などの良性疾患や、骨盤内腹膜炎、子宮外妊娠（異所性妊娠）などの急性疾患にも対応しております。患者様の増加のため、良性疾患に対する手術待機期間がおよそ1年となっています。このため良性疾患の患者様には、より早期に手術できる近隣の病院へご紹介させていただくこともございます。悪性腫瘍患者様の手術待機期間を少しでも短くしたいという願いもあり、ご理解いただきたく存じます。

私どもの診療は、地域の先生方に支えられて成り立っております。地域の患者様、そして先生方から信頼される科でありますよう、努力を続けてまいります。今後とも、何卒よろしく願いいたします。

＜専門看護師の活動状況＞

糖尿病認定看護師(師長) 馬場千恵子



糖尿病看護の目的は、患者がセルフマネージメントできることです。患者が自分の病気の療養に関するテーラーメイドの知識・技術をもち、自分の生活と折り合いをつけながら患者それぞれの症状や徴候に自分自身で何とかうまく対処すること、またどのように疾患とつきあっていけばよいかを意思決定し、行動できるようになることです。私は、糖尿病看護外来や入院中の方には医師や看護師の依頼により支援を行っています。

糖尿病療養支援外来は月・火・木・金曜日の基本予約制です。主に、足ケア、糖尿病透析予防指導、外来注射導入や血糖コントロールに難渋している方への関わり、CSII導入後の継続支援、妊娠糖尿病の方、外来CGM検査などです。

① 足ケア外来：予防ケア

初回は1時間を要し、検査や聞き取り、観察、つま切り・スキンケア・靴の選択と履き方など実践とパンフレットを用いた指導を行っています。

② 糖尿病透析予防指導

管理栄養士と一緒に部屋で6回を1クールとして、HbA1c、血圧、体重コントロールなど、推定塩分摂取量を計算し、腎臓を守るための支援を行っています。

③ 妊娠糖尿病

平成23年の診断基準の変更に伴い、当科を受診される妊婦さんは約1.5倍になっています。また、近年は高齢妊婦が多くなっていますので、さらに多い印象があります

妊娠中は妊娠周期に応じた栄養摂取が重要です。しかし多くの妊娠糖尿病を診断された妊婦は食事に関する不安を訴えます。受診までに極端な食事制限や、受診後も血糖値上昇やインスリン療法の恐怖から必要エネルギーが摂取できないケースも少なくありません。胎児の成長に大きく関係します。外来助産師さんと連携し出産まで支援をしています。

その人らしい日常生活を送りながら糖尿病と上手に付き合っていく方法を皆さんと一緒に考えています。

♪♪♪ 附属病院からのお知らせ ♪♪♪

※ NST研修会のご案内

参加無料（申し込み不要）

会場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂（本館西側の茶色の建物）
 対象 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士の養成を目的とした研修
 問合先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

演題	日程	講師
在宅・院外施設にむけての栄養管理・指導	3月11日(火) 18時～19時	臨床栄養部 荒川由紀子 主任管理栄養士 (NST専任管理栄養士) 看護部 古内三基子 看護看護師長(NST専任看護師)
第16回下野栄養管理研究会 栄養管理における輸液の基礎 特に、電解質について	4月8日(火) 17:45～19:20	自治医大さいたま医療センター 腎臓科 田部井 薫医師
栄養管理の重要性、栄養に関する生理機能 栄養評価(アセスメントとプラン)	5月13日(火) 18時～20時	消化器外科 倉澤憲太郎医師(NST委員長・専任医師) 臨床栄養部 川畑奈緒 管理栄養士 (NST専任管理栄養士)